

① 北鎮小学校の歴史

開校の経緯

明治34年旧第七師団の将校子弟教育所(現在の校舎と道路をはさんで反対側に位置する)として発足し、昭和20年の終戦後、軍の解体とともに一時、学校を閉鎖(校舎は連合軍が接收)します。その間は市内の大有小学校に間借りし、昭和21年9月に本校舎復帰となります。昭和26年2月8日に全校舎焼失し、木造モルタル校舎となり、昭和56年1月に現在の校舎となりました。

学校名

旧第七師団の将校子弟学校でもあったので「北の守りを固める」という意味から「北鎮」と名付けました。師団偕行社が経営。北の学習院と呼ばれていました。

開校当時 児童数35名

沿革

明治34年 1月	旧第七師団私設教育所として開校
2月15日	偕行社附属北鎮尋常高等小学校として私設認可
明治35年 4月 8日	第1回卒業式
明治41年 8月31日	新校舎落成(ルネッサン式・木造平屋建・白色塗装)
明治42年 2月	上原師団長が2組のスキーを寄贈、翌年さらに20組を寄贈
明治44年 3月31日	校舎・教具類を旭川町に寄付
明治44年 4月 1日	旭川町立北鎮尋常高等小学校と改称
明治45年12月	スキー習習開始
大正11年 7月15日	皇太子殿下本道行啓に際し、浜田東宮武官本校に御差遣
大正13年	女児校制服定
昭和 3年 4月 1日	授業料撤廃
昭和 6年	プール設置
昭和 7年 7月 5日	50mプールに拡張
昭和 7年 8月17日	澄宮(三笠宮)殿下台臨 本校運動会台覧
昭和 8年 9月 2日	校歌制定
昭和10年	男児制服制定
昭和16年 4月 1日	旭川市立北鎮国民学校と改称(国家主義教育濃厚となる)

昭和初期の運動会の風景



運動会の入場行進(昭和初期)

紅白の応援団長が旗を持ち、口パに乗って入場行進。この頃、北鎮小学校には廄舎があり、口パを育てていました。



運動会競技「ガマン会」

両手に鉄砲を持ち、長時間耐えた者が勝ちとなる苦しい競技です。(後ろに見えるのは時計台で、同窓生が自主的に作成し運動会に向けて奉仕しました)



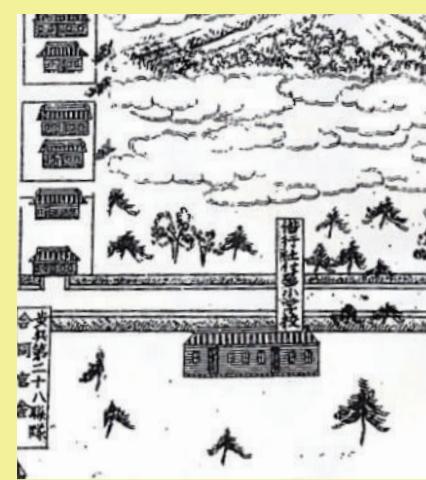
兵隊ごっこ

男子は鉄砲を持ち、ハイノウを背負って、模型の戦車や飛行機まで使い、華々しく行いました。

全国に先駆けてのスキー習習開始



北鎮小学校では、明治42、3年に師団長よりスキーの寄贈を受け、明治45年頃には教科に取り入れていました。日本初のスキー授業と思われます。スキー習習のため春光台や鷹栖の半面山まで足を延ばしていました。



一代目校舎
(現在の校舎と道路をはさんで反対側に位置する)



二代目校舎

当時、本道の建物はバラック式(廃材を活用した簡易式建て方)がほとんどで、煉瓦の土台に白壺の壁は、道内唯一を誇る堂々たる校舎でした。

小学校のプール

昭和6年の木枠のプール。北鎮小学校にプールができたということでは大きな話題となりました。その頃はまだ底は玉石だったため泳ぐと水が濁り、また川の水を引き込んでいたこともあり、プール掃除をするたびにバケツいっぱいのフナやウグイが採れました。これを肴に飲んだビールの味は今も忘れません。



その後、コンクリートで補修され、水道の水を入れるようになりました。

② 護国神社平成館(旧北鎮兵事記念館)

旧北鎮兵事記念館は、1934年(昭和9年)旧陸軍第七師団によって建設、鉄筋コンクリート造による帝冠様式の建物で、国の登録有形文化財にもなっています。屯田兵や日露戦争など、師団の戦歴・戦利品等を展示していましたが、太平洋戦争敗戦直後、軍にまつわる資料は全て処分され、他の展示品も戦後の混乱の中で散逸してしまいました。建物は一時期、旭川市の郷土博物館として利用されていましたが、現在は「平成館」として護国神社の所有となっています。



③ 北鎮記念館

1962年(昭和37年)頃、現在の陸上自衛隊第2師団司令部に、コザック兵の軍刀や終戦直後に処分されたはずの「第七師団史」全編が持ち込まれ、その後も続々と市民から戦前の物品が寄せられてきました。このため第2師団は遠軽駐屯地の空家を旭川駐屯地内に移築し「北鎮記念館」として開館します。ここには旧北鎮兵事記念館に展示されていた日露戦争旅順攻撃の戦利品であるピアノも展示されています。(凱旋以来ステッセル)



将軍夫人のピアノと呼ばれていました。

現在の建物は旧七師団の兵器庫外観をイメージし、2007年(平成19年)に新築開館しました。

一代目校舎と道路をはさんで反対側に位置する

二代目校舎

当時、本道の建物はバラック式(廃材を活用した簡易式建て方)がほとんどで、煉瓦の土台に白壺の壁は、道内唯一を誇る堂々たる校舎でした。



① 北海道スキー発祥之地碑
明治45年、春光台においてオーストリア人の軍人レルヒ中佐が、旧第七師団の将校や民間人に近代スキー技術を直接指導したことをうけ、この地が北海道における近代スキーの発祥の地として昭和41年建立されました。



② 蘆花寄生木ゆかりの碑



③ 若山牧水の歌碑



④ 軍用水道碑



⑤ 徳富蘆花文学碑

⑥ 忠魂碑跡



※現在の忠魂碑は花咲スポーツ公園内にあります。



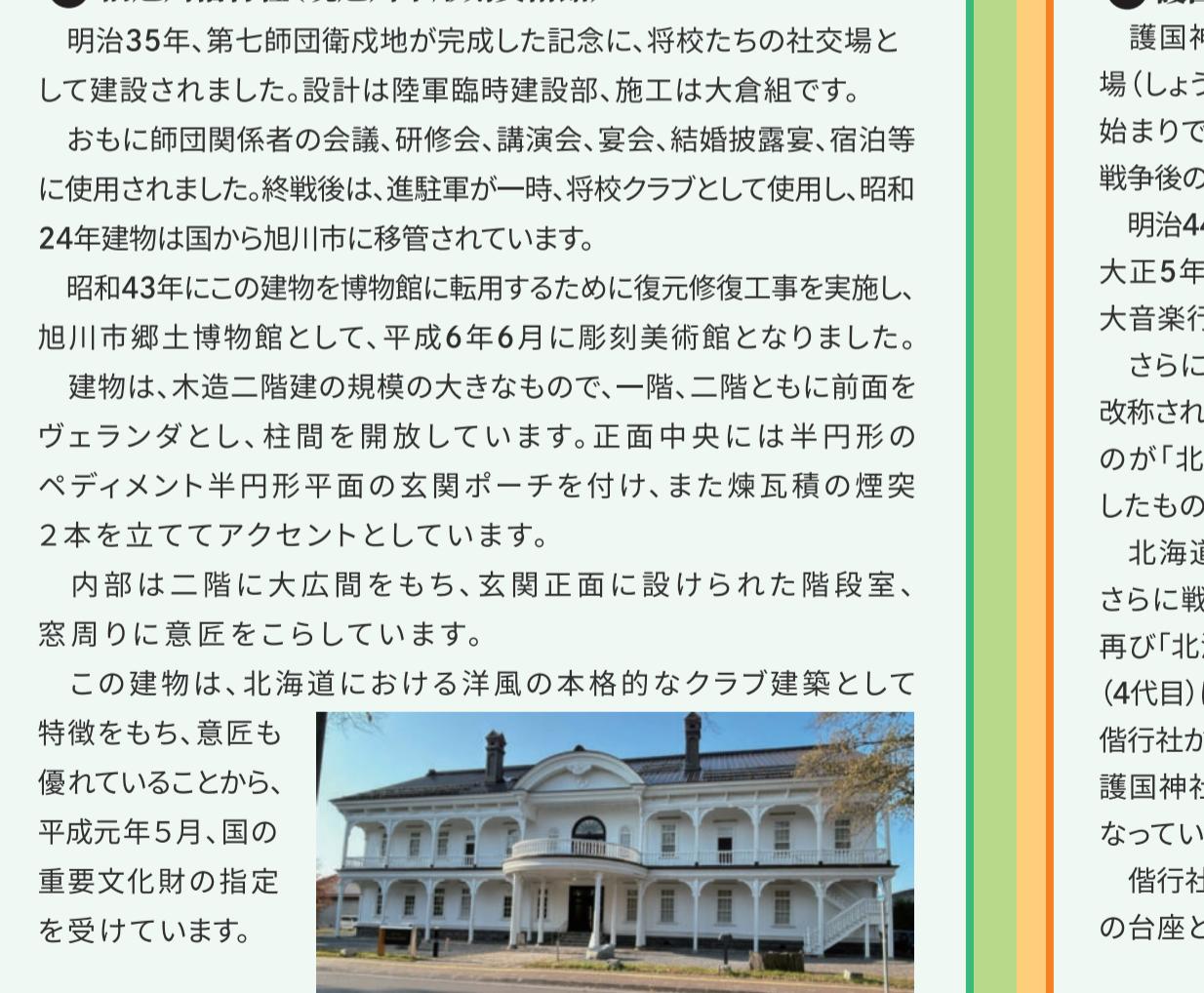
当時の忠魂碑

表面の地図の碑



④ 覆蓋付緩速ろ過池(ふくがいいつきかんそくろかち)

1908年(明治41年)、衛戍地にて腸チフスが発生した事から第七師団では軍用水道の整備を進め、1913年(大正2年)に完成。旭川で初めてとなる水道施設で、石狩川から取水して春光台に設けられたろ過池にポンプで揚水し、衛戍地内に給水しました。このろ過池は凍結を防ぐために煉瓦700万個を使ってアーチ状に天井まで積み上げ、その上に覆土するという全国的に珍しい構造をしています。現在も春光台配水場として市民の飲料水を提供しており、全国近代水道百選、北海道土木遺産に選ばれています。



⑤ 旧旭川偕行社(現旭川市彫刻美術館)

明治35年、第七師団衛戍地が完成した記念に、将校たちの社交場として建設されました。設計は陸軍臨時建設部、施工は大倉組です。

おもに師団関係者の会議、研修会、講演会、宴会、結婚披露宴、宿泊等に使用されました。終戦後は、進駐軍が一時、将校クラブとして使用し、昭和24年建物は国から旭川市に移管されています。

昭和43年にこの建物を博物館に転用するために復元修復工事を実施し、旭川市郷土博物館として、平成6年6月に彫刻美術館となりました。

建物は、木造二階建の規模の大きなもので、一階、二階ともに前面をヴェランダとし、柱間を開放しています。正面中央には半円形のペディメント半円形平面の玄関ポーチを付け、また煉瓦積の煙突2本を立ててアクセントとしています。

内部は二階に大広間をもち、玄関正面に設けられた階段室、窓周りに意匠をこらしています。

この建物は、北海道における洋風の本格的なクラブ建築として特徴をもち、意匠も優れています。平成元年5月、国の重要文化財の指定を受けています。



⑥ 護国神社の変遷と北鎮神社

護国神社は第七師団が編成完結した明治35年、練兵場内に「招魂斎場(しようこんさいじょう)」= 拝拝所(ようはいじょ)として創建されたのが始まりで初の招魂祭が実施されました。当時の旭川町主催としては日露戦争後の明治40年に第1回招魂祭が開催されています。(現在の護国神社祭)

明治44年に花咲町1丁目に社殿(2代目)を新築し「招魂社」となりましたが、大正5年に「北海道招魂場」と改称し、昭和4年には第1回北海道招魂祭大音楽行進も開催されました。(現在の北海道音楽大行進です)

さらに昭和9年に社殿(3代目)を新築し、翌10年に「北海道招魂社」と改称されました。偕行社を訪れる将校や来賓が拝礼できるようにしたものです。

北海道招魂社は昭和14年の官令により「北海道護国神社」に改称、さらに戦後の昭和21年に一旦「北海道神社」と改称しましたが昭和26年に再び「北海道護国神社」に戻しています。現在の社殿(4代目)は昭和40年に新築されたもので、北鎮神社も偕行社が復元されて郷土博物館となつた昭和43年に護国神社境内に奉還、新築され「北鎮安全神社」となっています。

偕行社前庭の北鎮神社跡は、台座のみが「忠の碑」の台座として現在も残っています。



忠の碑

⑦ 井上靖記念館

井上靖は明治40年、二区(現・春光6条4丁目)の師団官舎で生まれました。軍医であった父隼雄の従軍により約1年で旭川を離れましたが、母や弟が語る5月の旭川の美しさに「私は誰よりも恵まれた出生を持っていると思った」と、生誕の地旭川への思いを記しています。

昭和11年懸賞小説「流転」で千葉圭雄賞受賞、昭和25年「闘牛」によって芥川賞受賞、その他数々の賞を受賞し、昭和51年には文化勲章も受章しています。平成3年83歳で逝去。

井上靖記念館は平成5年開館、平成24年に東京都世田谷区の井上靖邸から書斎・応接間部分の寄贈を受け移設公開されています。

